

小田原の地に根ざして114年
新しい時代に向けた教育の創造

2017年度版

旭丘高校通信

(Q & A 学校案内)

PART 2 - 学校行事編 -

生きる力と結ぶ学びの創造
グローバル時代の私学
高校生の発達と自立を支援

普通科・総合学科

地域単位制総合高校

学校法人 新名学園 旭丘高等学校



旭丘高校の教育について校長先生に聞く － 誇れる学校行事について紹介してください－

(第3回体験入学セミナー学校説明相談会に参加した保護者の感想文より)

Question 1

体験入学セミナーに子どもと一緒に参加して、たいへん勉強になりました。なかでも生徒の皆さんが様々な学校行事について実に楽しそうに生き生きと自信を持って語る姿が印象的でした。

旭丘高校では、いろいろな学校行事について、子ども・生徒たちの出番がどこにあるのか、その特徴について、もっと具体的に知りたいと思います。

Answer 1

旭丘高校の学校行事の特徴は、二つあると思います。一つは、日常の授業・教科学習やホームルーム・生徒会・クラブなどの課外活動と、生徒たちの学校参加・地域参加・社会参加を総合的に結んで取り組まれている点です。もう一つは、生徒一人ひとりが、主体的に、自らすすんで仲間とともに多様な行事に参加し、“自治の力”と問題解決のための“学び”を深め、社会性と生きる力を育てている点です。

※今回の旭丘高校通信（Q&A学校案内）では、旭丘高校の学校行事を特集します。

高校生活のスタート、新しい仲間との出会い



入学式
－上級生が和太鼓で新入生を歓迎－（4月）



ホームルーム開き
－担任の先生が新入生と保護者に子育てを語る－（4月）

地域に広がる子育ての共同の輪



PTA・地域教育懇談会
－クラス・学年の枠を越えて語り合う－（7月下旬）



父母懇・子育て懇談会
－卒業生父母が地域に呼びかけ運営－（9月－11月）

行事を節目に ホームルーム・学年・全校の自治を高める



体育祭（クローバー祭・体育の部）
－全員参加を目指し、みんなの出番をつくる－（5月下旬）



文化祭（クローバー祭・文化の部）
－いまを生きる高校生文化（平和の文化・対話の文化）の創造を図る－（11月中旬）

生徒たちの変化・成長の姿から 子育ての共同を深める



ホームルーム懇談会
－ホームルーム活動のなかの生徒たちの姿を共有－（6月上旬）



PTS懇談会
－保護者（P）・教師（T）・生徒（S）の三者で懇談－（10月中旬）

地域の文化や歴史、環境に触れ、いまに生きる高校生としての力を発揮する



北条五代祭
－武者行列隊を組んで小田原のまちを歩く－（5月上旬）



久野川・山王川一斉清掃
－地域づくりの共同作業を学ぶ－（6月上旬）



一球入魂の心でお城通り清掃ボランティアを続ける野球部（毎朝実施）



曾我の傘焼き祭（5月）・真鶴の岩竜宮祭（5月）に参加する相撲部・プラスバンド部

地域のスポーツ・武道振興の ために学校を開く



夏季少年相撲教室
ー地域の少年60名以上に大相撲
の力士が稽古ー（8月下旬）



地域剣道錬成会
ー学校や道場の枠を越えて約
80名の小・中学生が交流試合ー
（8月下旬）

社会に目を開き「大きな進路」（社会発展の進路） と「小さな進路」（人間個人の進路）をつかむ



社会見学
ー行き先とテーマ、計画を自分た
ちで決めて実施ー（9月下旬）



修学旅行
ーナガサキで平和の価値に出
会ー（9月下旬ー10月上旬）



生徒・保護者が参加し 全学と地域みんなで学校をつくる



全学協議会
ー子どもの声を聴く学校づくりを
進めるー（年2ー3回）



全学教育研究集会
ー授業・カリキュラムづくりをみ
んなで考える（年3回）

足元からのグローバル教育 ー日中高校生文化・スポーツ交流ー

※姉妹校提携をしている中国の西安外国語大学附属西安外国語学校と安陽市第37中学(日本での高校)との交わりと絆



訪中
ー日・中・米三国の高校生で交流
（3月）



来日
ー歓迎集会で書を通して交流
（4月）

高校生活の3年間を総括し 新たな旅立ち・進路へ向かう



建学の精神を想う日
ー生徒会代表が参加する学園創立
者の墓参ー（9月中旬）



学園の 過去・現在・未来を 考える



110周年記念式典
ー生徒会が学園の過去・現在・未来
を構成詩で表現ー(学園史に係る研
究会や式典に生徒会代表が参加)



卒業を祝う会
ー全校で卒業を祝し、自治と学び
の伝統を受け継ぐー（2月下旬）



卒業式
ー全学で卒業生を祝福する対面フ
ロアー方式の式典ー（3月1日）

3年間の自治・学び・キャリア教育と結んだ 学校行事

旭丘高校では、1年は「自治と交わり」、2年は「平和と人権」、3年は「進路と生き方」とした各学年ごとの活動のテーマを持ち、行事と自治・学び、キャリア教育を結びつけた活動が展開されます。どの学校行事もホームルームを基礎にして行われ、ホームルーム・学年生徒集団・全校生徒集団が自治を高め、構成員の全員が参加し、活躍できるように方針を持つてのぞみます。また、クラブの参加や有志の参加を積極的に位置づけているのも特徴です。

2017(平成29)年度 生徒募集

募集定員 533名(推薦266名、一般267名)

募集学科 普通科(男女)270名／総合学科(男女)263名

- ※総合学科には「大学進学クラス」のジェネラルクラス(学業進学クラス)・スポーツクラスの2つと「進路探求クラス」「不登校生ベーシッククラス」があります。
- ※総合学科進学クラスには大学進学者を対象にした「特別奨学生制度」(主として学業に関するものと、主としてスポーツ・個性に関するものの2種類)があります。詳細は中学校におたずねください。
- ※普通科には、「一般クラス」「クリエイティブクラス」「不登校生ベーシッククラス」があります。
- ※なお、不登校生のうち入学後、通常の一般クラスで高校生活を送ることを希望する方は「不登校生特別推薦枠」での入試制度も活用することができます。

体験入学セミナー —セミナーと学校説明・相談会—

◆城内キャンパス(第1校地)と久野・荻窪キャンパス(第2校地)で同時開催

●体験入学セミナー・学校説明・相談会 午前9時～

【第5回】10月22日(土) 【第6回】11月5日(土) 【第7回】11月19日(土)
【第8回】11月26日(土) 【第9回】12月3日(土) 【第10回】12月10日(土)
【第11回】1月7日(土)

- ※詳細は中学校または本校にお問い合わせください。
- ※大学進学クラス、ベーシッククラス、クリエイティブクラスの特設相談会があります。

●文化祭—見学と相談会— 11月12日(土) 午前10時～午後2時

- ※自由に見学できます。入試相談コーナーもあります。

入試相談室

小田原駅から徒歩5分の城内キャンパス(第1校地)に入試相談室が開設されています。いつでも、なんでも相談し、アドバイスを受けることができます。

- 旭丘高校の学校生活紹介—在校生にも話を聞けます。
- 旭丘高校の入試情報を分かりやすく説明。
- あなたに合った高校生活と進路・進学のプランづくりをサポート。

※お申し込みは旭丘高校事務局
(TEL: 0465-24-2227) まで。



いつでも
何でも相談
できます

第1校地(城内キャンパス)

地域文化センターの
機能を持つ学校施設

城内キャンパスに設けられたホールは、生徒たちの日常の学習活動や集会の場となるとともに、全学協議会・全学教育研究集会が開催され、また、地域の行事や催し物にも活用されています。



地域に開放できる多目的ホール

小田原駅から徒歩5分

〒250-0014 神奈川県小田原市城内1番13号
TEL 0465-24-2227(代) FAX 0465-22-0216

第2校地(久野・荻窪キャンパス)

地域のスポーツ・文化交流、
国際交流の拠点を目指す総合施設

第2校地の諸施設は、生徒たちが多様な総合学習を展開する場であるとともに今後、地域のスポーツ・文化交流や国際交流に貢献するための施設・設備の拡充が図られていきます。

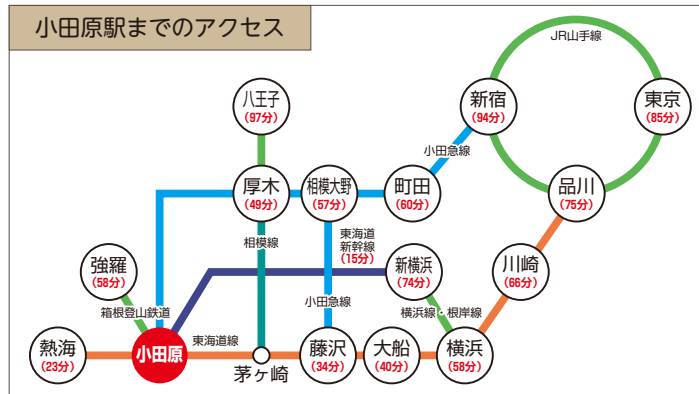


床暖房付き3階建て アリーナ

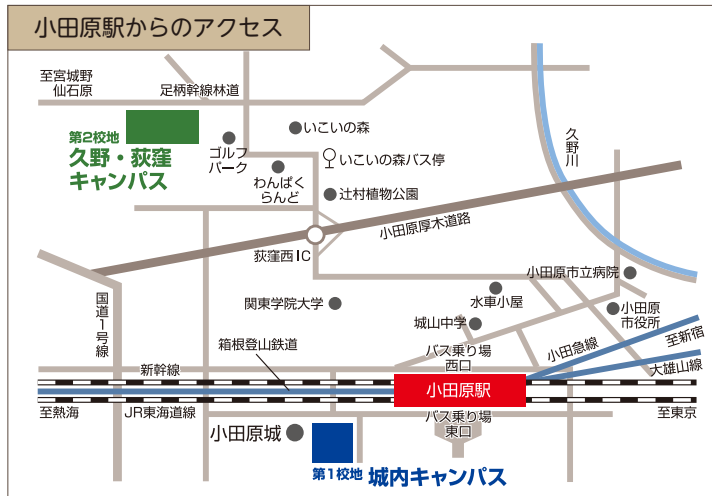
小田原駅からスクールバス15分

〒250-0042 神奈川県小田原市荻窪1980
TEL 0465-21-0660(代) FAX 0465-21-0680

小田原駅までのアクセス



小田原駅からのアクセス





高校生活の華 クローバー祭 (体育の部・文化の部)

Q2 体育祭はいつ開催され、どんな種目がありますか。

A2 旭丘高校では、体育祭と文化祭を合わせて「クローバー祭」としています。体育の部は5月の下旬に取り組みます。生徒会は、この体育祭を入学式後や2・3年次のクラス替え後にホームルームづくりを進め自治を高める大切な節目として位置づけています。競技種目は、代表選手による「ホームルーム対抗リレー」、クラス全体で参加できる「みんなでリレー」やクラスの団結が試される「大ムカデ」「20人21脚」などがあります。運動が苦手な人にも、クラス旗をつくったりゼッケンや応援グッズをつくったりと出番があります。力を合わせて練習や準備に取り組むなかでみんなの気持ちが一つになっていきます。運動部・文化部が参加する「クラブ対抗リレー」もあります。



Q3 文化祭を文化祭として成功させると共に、ホームルーム活動を発展させるという生徒会代表の発言がありました。学校は体育祭を開く目的をどんな所においていますか。

A3 旭丘高校の文化祭では、全校のホームルームが、それぞれの持ち味を生かして展示部門・公演部門・装飾物部門・模擬店部門・催し物部門などに挑戦します。全校生徒集団の指導機関である生徒会総務から「全員参加」の方針が提起され、これを受け止めてリーダー集団である学年委員会やホームルーム班長会がホームルームの現状を分析し、ホームルームでの話し合いを組織しながら、一人ひとりの生徒が役割を持って活動出来るような企画づくりを進めて行きます。そうした活動を通して、ホームルームの中に生じてくる種々の課題や問題が指導機関である班長会に集中され、生徒たち自身で問題を解決し活動を発展させることが出来るようになって行きます。また、その過程で様々な個性や価値観を持った生徒たち同士の豊かな交わりが生まれ、他者や集団との関係で一人ひとりの生徒が自らの価値を捉えなおしていきます。これらの活動の総体を、文化祭の成功と共に生活の自治能力を高める活動と言ったものだと思います。



VOICE

在校生の声

自分の発言をみんなが受け止めてくれ、体育祭を充実させる力に

僕は、体育祭をもっと充実したものにしたいと思い、体育祭に応援合戦の時間を設けることをホームルームの話し合いを基に実行委員会に提案しました。この提案には、他の人も共感してくれ、ホームルームの班長会から学年委員会へ、生徒会の指導機関の会議へとあげられ、体育祭のプログラムの中に位置づけられました。体育祭当日は、一人ひとり、みんなが生き生きと応援に取り組み、体育祭が終わった後、「この応援合戦があったから今年の体育祭は楽しかった」と、何人もの友だちが言ってくれました。自分が発信した声をたくさんの仲間が受け止めてくれて、体育祭をより良いものにする力となったことに、僕はとても深い感動を覚えました。

VOICE

卒業生の声

文化祭を通して未来へ繋がる人と人との絆を感じた

東日本大震災・原発事故や世界での連続テロ、核実験など、これからの世界のあり方に強い不安を感じるなか、私たちは「未来に向かって繋がる輪」をテーマに文化祭を開催しました。自分のクラスは地球環境の問題をテーマにした展示と模擬店に挑戦しました。文化祭当日は雨で、調理室から外の模擬店に食料を運ぶのは大変な作業でしたが、自主的に行動し大きな声を張り上げて必死に販売していた仲間の姿は忘れられません。保護者や地域の皆さんも展示に関心を持ってくださり、思いを共有することができました。人と人との絆を感じ、小さいけれど未来を築く一歩を実感できたこの文化祭は、高校生活の一番の思い出です。



平和と人権

－ナガサキで人類の過去・現在・未来を考える－

Q 4 修学旅行は長崎に行くと言いましたが、どのようなことをするのですか。

A 4 旭丘高校のナガサキ修学旅行は、30年間継続して取り組まれています。21世紀地球時代の人類共通の大きな課題である核と平和、環境の問題を歴史的・社会的にとらえ、被爆の実相や「核兵器のない世界」を目指す国際的な動向に触れて、「平和のうちに生存する権利」を学びます。

事前には、亡くなった被爆者の方の数（7万数千人）を目標とした折り鶴づくりや「原爆はどんな破壊力をもった兵器なのか」「原爆はなぜ落とされたのか」などの問題について自然科学・社会科学両面からの学習をします。そして現地での資料館見学、被爆講話、碑めぐりなど体験学習、事後には一人ひとりの生徒の50字メッセージや合唱構成詩づくりなどと、年間のカリキュラムをもったユニークな総合学習です。今年度は長崎で平和学習をした後、佐世保の「ハウステンボス」を訪れ、終日オランダ文化とアミューズメントを楽しみました。



Q 5 ナガサキ修学旅行は生徒の皆さんにどのような変化をつくっているのでしょうか。

A 5 ナガサキ修学旅行は、生徒たちに「新しい学び」の契機を与えています。ある生徒の言葉を紹介します。「中学校の時の勉強は、ただ教科書にある知識を先生から聞くという感じで、正直に言うともう興味を持てなかったのですが、ナガサキで原爆の体験談を聞いたり、原爆の傷跡を実際に見たときは、事実がリアルに伝わって来て、被爆当時の状況が頭の中にイメージでき、人々の苦しみや悲しみを感ずて涙がでるときもありました。

私はこのようにして旭丘高校で平和や人権のことを学ぶなかで、中学校時代の障害をもった仲間との心が通う触れ合いの体験を改めて思い起こしました。そして、これをただの良い思い出ではなく、自分の進路の課題にしたいと思うようになり、いま障害児保育の仕事につくことを目指して学んでいます。」



私たちが出会った平和の価値 －生徒たちの50字メッセージ－



- ❖ 平和で青くきれいな空を私たちの子どもたちに残したい。核兵器や戦争、原爆の恐ろしさ、絶対に忘れてはならない。
- ❖ 核兵器は人類と共存できない。地球より重い一人ひとりの命を大切にできる未来を築くため、核をこの地上から無くそう。
- ❖ 戦争で正義は実現しない。相手と対話し分かり合い、共に生きることこそ意義があり、それが出来たときに本当の平和がくる。



スケジュール

1日目	集合場所：羽田空港第一ターミナルビル 10：15発 JAL便 羽田空港――長崎空港――長崎原爆資料館（被爆体験講話・見学）――長崎市内（機内自弁）12：15頃着 14：30 講話：大ホール使用 17：30頃
	平和学習 その1 ①ナガサキで被爆体験講話を聞く 14時30分～15時30分 講師－1班：山脇佳朗さん、2・3班：永野悦子さん、4班：松尾幸子さん ②原爆資料館の見学と調査 15時30分～16時30分
2日目	テーマ：旭丘高校オリジナル平和学習 12：00 12：15 ホテル――碑めぐり・ゼミ（平和公園～爆心地公園～平和集会）……………和泉屋（昼食）9：00 ――平和学習を総括する集い（長崎総合福祉センター）――ホテル 14：30 16：50 13：30
	平和学習 その2 ①原爆遺跡・碑めぐり・ゼミ 9時00分～11時30分 （各班ごとに分散し現地講師の案内で学習、終了後コースごとに記念撮影） ②平和集会 11時40分～12時 「爆心地公園（平和宣言）」合唱、黙禱、折り鶴奉納、平和宣言 ③平和学習を総括する集い 13時30分～14時30分 50字メッセージ作成・碑めぐり・ゼミ報告および平和学習総括
3日目	ハウステンボス見学
4日目	太宰府天満宮――福岡空港――羽田空港着 15：00 JAL318便 16：35

「大きな進路」と「小さな進路」を結び 旭丘高校の進路・キャリア教育

2年次のナガサキ修学旅行では、1年次に培った人と手をつなぐ力・共同する力を基礎に、平和や人権、環境などの人類史的価値を指針とする「大きな進路」を手に入れ、それを土台とした3年次の「小さな進路」（進学先での専攻分野や職業等）の選択につなげていきます。



核兵器廃絶を目指す 国際的動向に触れて

－ナガサキ原爆資料館で生徒たちが出会った
オバマ大統領のメッセージと折鶴－
We have known the agony of war.
Let us now find the courage, together,
to spread peace and pursue a world
without nuclear weapons.
私たちは、戦争の苦悩を経験しました。
共に、平和を広め核兵器のない世界を追求する
勇気を持ちましょう。





より良い学校をみんなで作る

全学・地域との対話があり、
生徒の声が生かされる学校生活

Q 6 生徒や保護者の声を学校づくりに反映させるためにどのような場を設けていますか。

A 6 日常的にも生徒・保護者の声を大切にしていますが、大きな場は全学協議会（年2-3回開催）と全学教育研究集会（年3回開催）です。全学協議会は、生徒会・PTAの保護者・神奈川父母懇談会旭丘支部（卒業生父母）・教職員・同窓会・学園（理事会・評議員会）の代表と事務局（六者懇談会）で構成されています。みんなが対等・平等に、授業・カリキュラム、校則、施設・設備、学校とまちづくりのことなど、学校にかかわるさまざまな問題にそれぞれの立場から意見交換をし、討議を深めます。また、1961年から毎年積み重ねられてきた全学教育研究集会は、生徒や父母も参加し、公開研究授業の参観や記念講演・シンポジウムを通して、より良い学校づくりや授業・カリキュラムづくりについて話し合い、新名学園私学教育研究所の専門家や研究者の方たちからもアドバイスを受けます。



VOICE

生徒の声

意見を尊重してもらえからこそ
責任を持って行動したい

以前の私は、自分の意見を言うことを恐れ、人の顔色ばかり気にしていました。そんな自分が、学校や社会の問題について自由に意見を言う先輩たちの姿にあこがれ、生徒会の活動に参加しました。全学協議会や全学教育研究集会等の場で自分たちの意見が尊重され、人として対等に扱ってもらえることを実感し嬉しく思いました。だからこそなおさら、自分たちも学校やまち、社会をつくっていく一員としての責任を持っているのだとの自覚が芽生えました。

授業は先生と生徒が
共につくるものと実感

VOICE

生徒の声

普段は授業を受けている立場だけれど、全学教育研究集会では、先生方や保護者の方々と並んで公開研究授業を参観し、合評会にも参加させてもらいました。いつもと違った視点で「授業って何だろう」「自分たちは何のために学んでいるんだろう」と考えさせられました。先生方が私達にわかる楽しい授業を創り出そうととても苦労している、普段見ることのできない姿も見ることができて、あらためて、学習や授業って先生と生徒と一緒につくっていくものなんだなあと感じました。

自分たちの言葉で
変化・成長を語る姿に感銘

VOICE

保護者の声

全学協議会に参加すると、生徒たちが、自分たちの言葉で自らの学びと成長の様子やホームルーム集団の変化について語っている姿にとても感銘を受けます。自分たちの学びや成長が、大人たちの共同や社会全体の力で支えられていることを感じることで、生徒たちのために学び仕事をしたいという自覚を深めています。学校参加・社会参加の活動は、生徒たちに社会の主権者となってゆくための力を確実に育てていると思います。

地域と結ぶクラブ活動

—各地の祭りに参加する吹奏楽部—



私達旭丘高校の吹奏楽部は、真鶴・岩龍宮祭（5月中旬）、曾我の傘焼きまつり（5月下旬）、開成町あじさい祭（6月上旬）、おだわら市民交流センターUMECOのサマーフェスティバル（8月下旬）とUMECO祭り（11月下旬）、音楽祭・小田原イズム（9月下旬）、鴨宮愛児園クリスマスコンサート（12月下旬）など地域ぐるみで開催される多くのお祭りや催し物に出演要請を受け、オープニングセレモニーやパレードで演奏しています。最初に真鶴・岩龍宮祭に相撲部とともに参加したのがきっかけで、評判が地域に広がり、出演依頼が増えて来ました。

審査員の評価を意識したコンクールの演奏と違って、地域での依頼演奏は、来てくれた人たちに楽しんでもらいたいという気持ちをまず大切にします。地域の人たちの楽しそうな笑顔が見えるとても励みになります。今年は初心者部の部員が多いのですが、地域での演奏で場数を踏んだことで、コンクールでも緊張しないでのびのび演奏できるようになって来ました。

（吹奏楽部部長・Nさん）



UNIQUE



旭丘高校にしかないユニークな授業（その2）

ナガサキ修学旅行「原爆遺跡・碑めぐり」

●ナガサキ修学旅行平和学習の5段階のカリキュラムの核になる「被爆遺構の碑めぐり」

被爆71年、連続31年間継続されている旭丘高校「ナガサキ修学旅行」の被爆地での平和学習カリキュラムは、次のように5段階になっていて、被爆地の「ナガサキの証人」（ナガサキ証言の会）の方々との協力・共同の輪で進められています。

①被爆地で被爆体験を聞くー②原爆資料館の見学・読み取り・聞き取りー③爆心地公園での平和集会（合唱・黙祷・折り鶴奉納・平和宣言）ー④被爆者と碑めぐり・ゼミ（谷口ゼミ・松谷ゼミ）ー⑤平和学習を総括する集い。（50字メッセージ作成）

このカリキュラムの核になるのが、碑爆地で被爆者の方の案内で原爆遺跡をめぐる被爆体験を聞き、被爆と核の問題を共有する「碑めぐり」にあります。

●旭丘高校ナガサキ修学旅行平和学習のコーディネーター・故廣瀬方人（ひろせまさひと・長崎証言の会）さん

「碑めぐり」を考案したのは、今年1月13日に85歳で他界された元長崎工業高校定時制英語教員の廣瀬方人さんでした。廣瀬さんは、爆心地から1.5kmで学徒勤労動員中に被爆、「ナガサキ証言の会」の代表委員として1985年から旭丘高校ナガサキ修学旅行平和学習のコーディネーターを務めてくださいました。

廣瀬さんが書いた「ナガサキの心」に次のような一節があります。

◆ナガサキの被爆者で谷口稜嘩さん（「長崎原爆青年乙女の会」の元会長・国連で人間と核兵器は共存できないと訴えた方）という人がいる。現在生きている被爆者の中では、外面のヤケドが最もひどい人である。背中一面にヤケドをしたために、うつ伏せのまま九ヶ月寝ていなければならなかった。そして

床ずれのために胸も背中もひどい傷である。九死に一生を得てかれは生きのびた。そして新婚旅行の時、はじめて彼の体をみた奥さんは一晩泣き明かした。泣き明かした後に奥さんは「この人の心と体を世話してあげるために私は生きよう」と決心した。

●被爆の追体験やと被爆体験の継承を通して、原爆と現代の核の問題を自らの生き方・進路とかかわる課題として捉え直す生徒たち

◆「被爆体験や原爆のモニュメントに触れ合うとき、できるだけ若者の豊かな感性をはたらかせた追体験を深めてほしい」という廣瀬さんは、原爆遺跡を巡りながら生徒たちに「碑（いしぶみ）に話しかけ、耳をすませてください」「想像力の翼を広げてください」「心の被爆者になってください」と語りかけました。生徒たちは、原爆の碑に触れて当時の様相をイメージし、被爆者の人たちの痛み・苦しみを自らの心に受け止めます。そして、現在に至るまでの被爆者の生活史と核廃絶を願う強い思いを聞きとることで、被爆の問題を歴史と社会の中でとらえる視点を身につけます。生徒たちが想像力を豊かに発揮し被爆体験を深く聞きとるためにも、4月から半年間積み重ねている事前学習が重要な意味をもちます。

◆こうした被爆の追体験と被爆体験の継承を通して、生徒たちは事後学習として文化祭の展示やP.T.S懇談会（保護者・教師・生徒の三者による懇談会）での保護者に向けた合唱構成詩でナガサキ・レポートを報告します。そして71年前の悲惨な出来事を自らがいまを生きる課題の中に捉え直し、人類史の未来と自分の生き方を重ねて探求する「大きな進路」の視点を獲得していきます。



左から水野浩校長、下平作江さん、故廣瀬方人さん、故北原証言の会事務局員（2006年9月、長崎原爆資料館ロビーにて）



ピータータウンゼント著「長崎の郵便配達」の主人公、谷口稜嘩ゼミ開講



白山キリシタン墓地-1945.8.9 一家原爆死の墓標の前で-森口貢（証言の会事務局員・右）、山口響（証言の会事務局・長崎原爆の戦後史を残す会・左）

ニュース

総合学科に大学進学スポーツクラス新設！

Q7

体験入学の全体会で、校長先生より来年度から総合学科進学クラスにスポーツクラスが出来るとともに総合学科進路探求クラスにもスポーツ関係の科目が多く取れるコースが出来るとのお話があり、興味を持ちました。こうしたクラスやコースの入試の基準や学習の内容（カリキュラム）などを教えてほしいと思います。

A7

総合学科大学進学スポーツクラスでは、①高校時代に全国大会出場などの実績をあげるによりスポーツ推薦で大学への進路を拓く「アスリート」タイプの生徒、②学業とスポーツを両立させた高校時代の学びを生かして将来の進路の目標を定め、健康・スポーツとかかわる様々な分野での大学進学を果たしていくタイプの生徒を育てます。②のタイプの生徒も大学進学にあたっては、一人ひとりの生徒に合わせて指定校推薦・公募推薦・AO入試等を活用したキャリア・ガイダンスがなされます。本校の高校入試の基準は、内申点と中学校時代のスポーツ実績に基づき設けられていますので、具体的に入試基準を知りたい方は、体験入学に参加して下さい。また、大学進学スポーツクラスとは別に、③総合学科進路探求クラスに、スポーツ・からだ・健康関連の教科目が数多く配置された進路探求スポーツ類型のコースがあります。

※大学進学スポーツクラスと進路探求クラス・スポーツ類型の学習内容（カリキュラム）については今後の旭丘高校通信で詳しく紹介していきます。